

令和7年度 大田区立開桜小学校 自己評価 報告書

令和8年3月1日

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄								
								評価	人数	コメント						
生予個性測別 る困目力難標 をな1 育未成来し社 会を創造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3 83.3	A4「以前より主体的に取り組むようになった」とアンケートで回答した児童の割合が85%以上。 A3 80%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「我が子が主体的に取り組むようになった」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。 B3 80%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A4 92.7 B3 80.7	◇教職員が意識して日頃から児童が主体的に取り組むような機会を設けてきた結果である。 ◇行事や学校公開の様子を通して、子どもたちの変容を感じ取られた結果である。 ◆家庭とも連携をしながらコミュニケーションを増やしてもらったり、学校でも授業の展開を更に工夫したりしていきたい。	A	10	・色々なイベントや校外活動を通じて地域の大人と触れ合い、社会を学んでいると思う。 ・5、6年の未来づくりに向けて、自分の意見や考えを持って総合的な授業などに取り組み、正解が一つではない世の中の様子を知る学習の流れをつなげてほしい。 ・創造力や課題解決力を身に付けてほしい。ゆとり教育が持てないと実現は厳しい。 ・子ども交流センターや学童の様々な活動・行事で開桜小の子どもたちが協力しあい、考え企画する姿が見られる。 ・学校の日常活動の成果の表れかと思う。 ・特に、低学年の児童が「社会の課題」をどのように認識させるのかハードルが高いテーマと思われる。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					3 87.5	3: 80.7		B	1				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										4 100	2: 80.7	C	0
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
お世個別 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る材 国を際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3 83.3	A4「自分と違う考えを受け入れている」とアンケートで回答した児童の割合が80%以上。 A3 75%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「家庭で、違う文化について話題にしたり、触れたりしている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。 B3 75%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A4 90.8 B2 74.1	◇教職員が意識して日頃から児童が主体的に取り組むような機会を設けてきた結果である。 ◇クラス内でも様々な国籍の児童が増えてきている中、自分と違う考えを受け入れることができるようになってきた。 ◆家庭においても異なる文化に触れたり、話題にしたりする機会を増やしていけるように意識改革が必要である。	A	11	・国際化でいろんな文化を持つ外国人と接し、広い視野を持てることは大切である。それによって日本文化や個性もわかってくる。 ・羽田空港のある大田区なので異文化への理解は必要である。しかし自国の文化を語れないと比較できないので伏せて取り組んでほしい。 ・日本語で説明したり表せないものは外国語でもまたその国のことも理解できないと思うので郷土と他国と文化を深める取り組みがあるとよいと思う。 ・内川学習や地域に出て学習を通じて、子どもたちは大森の地域や歴史、学校の歩みにも関心を持ってきていると思う。 ・子どもたちの方が生活の中で自然に受け入れ、成長している結果だと思うが、本当に素晴らしい。 ・英語での実践的なコミュニケーションも大切と思われるが、日本語を普通に使えることも重要である。						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					3 83.3	3: 74.1		B	0				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										2 62.5	2: 74.1	C	0
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
た一個 め人別 のひ基 と標 礎り3 とが な個 る性 力とを 能育 力成 をを し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3 91.7	A4「進んで勉強する。進んで体を鍛えている」とアンケートで回答した児童の割合が80%以上。 A3 75%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「保護者も、勉強したり、体を鍛えたりしている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。 B3 75%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A4 84.8 B2 71.4	7	・公開授業などでも、体を動かす時間が減ってきている話があったので、開桜体操が実現したら学校や地域に広まるとよいきっかけになるのではないかと。 ・親子で一緒に学ぶことは、共有のコミュニケーションとなり家庭環境が良くなると思う。 ・低学年から親子で「読み聞かせ」の習慣をつける取り組みなどどうでしょうか。 ・社会でも大きな問題が続く中で、子どもも親も不安をもつことが多いかと思う。豊かな心と基礎的な学力はそうした今だからこそ大切かと思うが、より根本には命を大切に、すぐに結果がでなくても前に進み自分を信じる心を子どもたちには持ってほしいと思う。 ・児童が健やかに育つのを願う。それにはよい環境を整える必要。家庭だけでなく地域も協力したい。 ・大人への働きかけは難しいことだと思う。子どもの成長が一番有効な啓発運動になるのかなと思う。	A	8						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						3 87.5	3: 71.4	B	3				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										2 70.8	2: 71.4	C	0
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
た一個 め人別 のひ基 と標 礎り3 とが な個 る性 力とを 能育 力成 をを し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3 91.7	A4「進んで勉強する。進んで体を鍛えている」とアンケートで回答した児童の割合が80%以上。 A3 75%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「保護者も、勉強したり、体を鍛えたりしている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。 B3 75%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A4 84.8 B2 71.4	7	・公開授業などでも、体を動かす時間が減ってきている話があったので、開桜体操が実現したら学校や地域に広まるとよいきっかけになるのではないかと。 ・親子で一緒に学ぶことは、共有のコミュニケーションとなり家庭環境が良くなると思う。 ・低学年から親子で「読み聞かせ」の習慣をつける取り組みなどどうでしょうか。 ・社会でも大きな問題が続く中で、子どもも親も不安をもつことが多いかと思う。豊かな心と基礎的な学力はそうした今だからこそ大切かと思うが、より根本には命を大切に、すぐに結果がでなくても前に進み自分を信じる心を子どもたちには持ってほしいと思う。 ・児童が健やかに育つのを願う。それにはよい環境を整える必要。家庭だけでなく地域も協力したい。 ・大人への働きかけは難しいことだと思う。子どもの成長が一番有効な啓発運動になるのかなと思う。	A	8						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						3 87.5	3: 71.4	B	3				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										2 70.8	2: 71.4	C	0
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													

学個別 校力・標 教4 師力を 向上さ せませ ます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100	A4 A3 80%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「質の高い教育を実現するため、学校は努力している」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。 B3 80%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A4 85.9	◇校内でのOJT研修を実施し、ベテランも若手教員もお互いに学び合う機会を設定したことで学びを深めることができました。◇教師自身も研修会に参加したり、自己研鑽したりして授業力向上に務めた。 ◆今後更に、授業力向上のために学び続けることが大事である。	・教師や学校は質の高い教育実現に努力していると思う。 ・自身のスキルアップは常に心掛けておかなければならないと思う。 ・担任の先生の授業準備や研鑽には頭が下がる。例年の取り組みはうまく引継ぎをしてもらうことで負担が少なくなれば良いと思う。 ・運動会や授業を見せていただき、先生方が元気で活躍している姿はこどもたちにも大いに励みになると思う。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 87.5	B4 89.6	B 1		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2 70.8		C 0		
		④校内研究などを通して、主体的に学びに向かう児童の育成に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100		D 0		
た自個 め分別 のら目 学し標 びく5 をい き支 援い しき とす 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 87.5	A4 A3 80%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「学校は児童一人一人を大切にしている」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。 B3 80%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A4 88.8	◇児童一人ひとりを大切にしながら教育活動に取り組んできた結果である。 ◇教員は、いじめ防止研修や服務研修などを積み重ね、早期発見・早期対応など組織的に対応してきた。保護者との連絡も密に取り合っている結果である。 ◆引き続きこどもに寄り添いながらの指導を続けていきたい。	・児童に寄り添いながら教えるのは大変である。いろいろな境遇の児童がいる中でそれを実践していくのは大変である。 ・教員や親とこどもたちのコミュニケーションはよくとれていると思う。更に活発になるようにしていきたい。 ・いじめやその他の困難を抱えたこどもと家庭への支援は就学前から中・高・青年期へと長期的視点が必要である。 ・先生方の日頃の関わりが成果をあげている現実があると思う。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100	B4 89.2	B 1		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 87.5		C 0		
						D 0		
安柔個 心軟個 なで目 教創標 育造6 環的 境な学 つ習 く空 間と 安全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 91.7	A4 A3 80%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「学校は安全・安心な学校づくりに努めている」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。 B3 80%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A4 91.5	◇ICT機器の使用ルールの重要性を理解させながら遵守するように指導してきた結果である。 ◇学校で安心・安全に過ごせるように教職員一同で取り組んでいる。スピード感をもって対応した結果と考える。 ◆児童の中にはICT機器ルールを守ることができない子もいるので引き続き家庭とも連携しながら指導していく。	・こどもたちがとても元気で安心して学校に通っている姿を見る。 ・SNSの危険性やトラブルについての授業を行っていただけて感謝している。AIなどの進歩が目覚ましく、教えることは難しいが未来を生きるこどもたちには必要なスキルだと思うので外部講師を招いても学ばせてほしい。 ・教育環境づくりに努力していると思う。 ・学校のみで成果を得られない項目であることも承知である。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100	B4 92.8	B 0		
		③ICT機器を活用して、児童に資料を提示したり、タブレットを活用したりして、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 91.7		C 0		
						D 1		
学地学 校域校 別を コ・目 つミ家 標 りユ庭 クニ まテ地 域の 核連 と携 し・協 働に よる	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 87.5	A4 A3 80%以上 A2 70%以上 A1 70%未満 B4「学校は、保護者や地域と連携している」とアンケートで回答した保護者の割合が85%以上。 B3 80%以上 B2 70%以上 B1 70%未満	4: A1 59.8	◇地域行事が復活してきたが、児童の参加では参加する子と全くしない子との差が大きい。習い事が多い児童は参加しやすいのかもしれない。 ◇教員が地域行事に参加し、保護者や地域と連携が深まってきていると感じる。 ◆コミュニティスクールにもなったことで、地域や保護者とも連携してネットワークを広げ、地域行事になるべく親子で参加できるように啓発していく。	・園ボラさんと一緒に花を育てることにより地域の方々や仲良くなり、こどもたちにとってもよいことだと思う。 ・地域と学校が連携し、協働が図れば素晴らしい。 ・今までの形にとらわれず、様々なこどもたちが、各々、交流活動できる場を地域でも作ってほしいと思う。 ・安全な活動を行うと地域に対する理解が深まり、地元への愛着心が育まれると思うので、参加を呼びかける協力をしてくださるとありがたい。 ・保護者の方が地域イベントに興味関心が低いとそのお子さんの参加や関わりが続かないように思う。低学年では親子で参加し、高学年は友人と参加できるような取り組みや告知の流れができたらいのではないかと。 ・放課後教室やPTA・おやじの会等の活動、学校との協力は地道な活動の中で成果をあげていると思われる。 ・地域＝町内会も高齢化。役員の採用難などによって、旧来の行事の継続すら困難な状況にある。 ・おたの未来づくりの取り組みは素晴らしい。保護者へのPRが弱かったのでは。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 95.8	B4 92.7	B 1		
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 66.7		C 0		
						D 1		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。